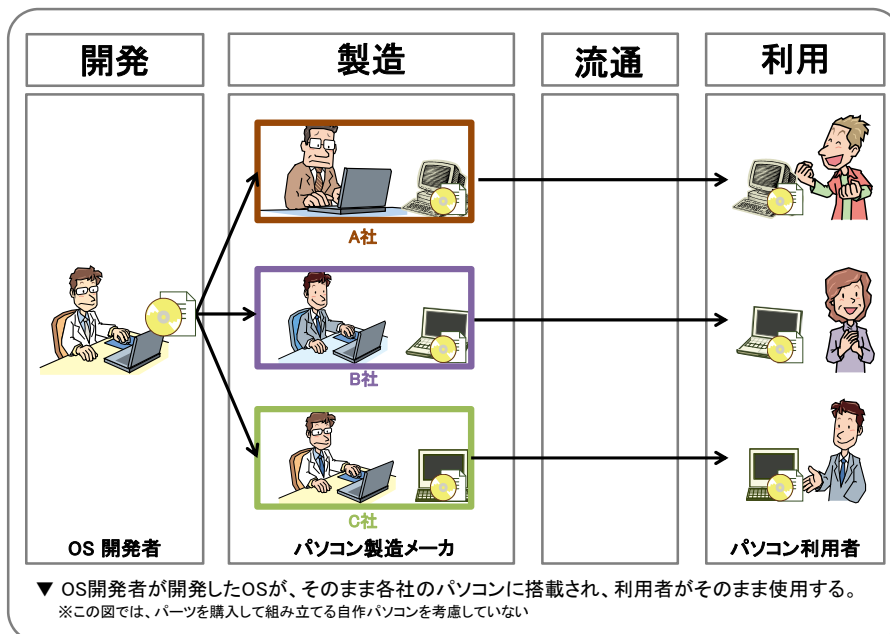


### ＜パソコン向け商用 OS とアンドロイド端末の脆弱性対策の違い＞

パソコン向け商用 OS 「Windows」 などでは、開発された OS をカスタマイズせずにそのまま利用者が使っています。「Windows」などに脆弱性が発見された場合、例えば OS 開発者がそれを 1 か月で修正すると、どのパソコン利用者でも 1 か月で脆弱性を解消できます。またネットワーク経由で利用者に修正プログラムを配布する仕組みも整備されています。



一方アンドロイド端末の場合、OS 開発者（OHA: Open Handset Alliance）が開発した OS を端末製造メーカーがカスタマイズしているため、アンドロイド端末の利用者ごとに使っている OS がばらついています。OS 開発者が脆弱性を 1 か月で修正しても、端末製造メーカーがその修正プログラムをカスタマイズした OS に組み込むために時間を要します。端末製造メーカーごとに OS に組み込む時間がばらつく（例えば、A社は1か月で終わっても、B社、C社はそれぞれ3か月、半年かかることも想定できる）ため、アンドロイド端末によっては対策が遅れる端末がでてしまいます。

